

一般質問

市民の声を市政に

(文責は、各質問者)

一般質問に28人が登壇

市長の国、県に
対する政治姿勢と
副市長2人制について



小島 文男
議員

今年1月に埼玉県知事が春日部市を訪れましたが、市長からは、用事の先約があり難しいと返事をいただきました。

個々の主義、主張はあると思いますが、やはり国、県、市のパイプは太くして、みんなが仲よく、このまちをつくっていかねばなりません。

市長1人では限界があると思います。国会議員、県議会議員、県知事、市長と、いろいろな形で話し合っていくべきです。市長は上田知事に会うのを拒否するような感じがします。市長の行こうとする姿を、後ろからベルトを引っ張る人はいないでしょうか、市長の政治姿勢について、お伺いします。

また、1年ほど前に私が提言しました副市長の2人制について、現在どのような考えを持っているのか伺います。

私は、市長就任以来、ひた

すら春日部市の発展を願い、市政運営に全力で取り組んできました。市民の皆様のためであれば、県知事、県議会議員はもとより、どこへでも出かけ、どなたにもお願いに上がるつもりです。

また、副市長については、当面は1人とし、2人制は将来的な課題として考えているところです。

このほか

○東中学校用地（県有地）取得の件

○春日部駅付近立体交差事業について

○市立美術館の開設は

合併特例債事業について



会田 幸一
議員

平成17年10月1日に合併して、2年半がとうとうとしています。合併の特典として合併特例債が盛んに叫ばれていました。合併特例債は、250億円の適用があると聞いていたのですが、合併特例債額はどのくらい受けられるのか、現在の適用事業と金額を伺いま

す。また、今後の予定事業と予定金額もあわせて伺います。

○財務部長

合併特例債は、10カ年に限り、市町村建設計画に基づき、特に必要な事業の経費に起債できるもので、当市の場合、発行期間が平成17年度から平成27年度までで、合併特例債発行可能額は、249億7000万円です。現在の適用事業と平成19年度見込額は、南桜井駅周辺整備事業が6億410万円、藤塚米島線整備事業が2億950万円、粕壁三丁目A街区の中の子育て支援施設整備事業が17億9130万円の3件で合計26億490万円が現段階の適用事業です。

また、今後の予定は、この3事業で合計約77億円です。平成20年度当初予算では、新たに庄和総合支所整備事業1890万円を計上しましたが、全体額は未定です。今後想定している事業としては、春日部駅付近連続立体交差事業、地域振興ふれあい拠点施設整備事業等を予定しています。

このほか

○市長の施政方針の内容について

○暫定税率の堅持についての緊急提言について

市長の平成20年度 施政方針について



白土 幸仁 議員

石川市長が就任して2年半が経過しようとしています。

この間、庄和第1保育所、子育て支援センターの整備など、厳しい財政状況の中でも、市民の皆様との約束である日本一子育てしやすいまちに向けて、少しずつではありますが、着実に推進されてきました。

また、市章制定等のソフト面、藤塚米島線整備等のハード面など、春日部地域と庄和地域の市民の皆様との一体感を醸成する政策を推し進めたことに敬意を表します。

昨年は、合併後初めての総合振興計画を策定し、いよいよ4月から人・自然・産業が調和した快適創造都市に向けてさらに自立したまちを推し進めるために、特例市として船出することとなります。

そこで、市長として、今後特に力を入れて進めたいと考えている施策と、その抱負について伺います。

○市長

市民主役の基本理念に基づき、市民との協働や市民の視点に立った行財政改革を進めながら、市民の皆様の活躍の場をふやしていきたいと考えています。また、まちの活力は人の活力によって生まれるものと考えており、子育て世代を初め、多くの市民の皆様が住んでよかった、住み続けたいと、心から実感できるような総合振興計画に記載した施策をバランスよく推進し、市民の皆様にも明るい未来を約束できるような市政運営に全力で取り組んでまいります。

子育て支援の充実を



卯月 武彦 議員

こども医療費無料制度の充実、子育て支援の重要な柱であり、その充実なくして子育て日本一はあり得ないと思います。県内他市では、中学卒業まで無料が主流となりつつありますが、対象年齢の拡充について、市の子どもの減少とは逆

に、保育所の入所希望者は年々増加しています。老朽化し、建てかえが必要になっていく保育所を増築して定員をふやすなど、保育サービスの充実を図るべきと思いますが、いかがでしょうか。

また、放課後児童クラブ入所希望者も年々増加傾向にあり、大規模化しているクラブが少なくありません。大規模化解消の取り組みを伺います。

○福祉部長

こども医療費は、制度を拡大したばかりのため、当面は状況を見きわめてまいります。保育所の老朽化に伴う建てかえの必要性は認識しており、順次実施する予定です。放課後児童クラブ大規模化の解消は、厚生労働省ガイドラインに沿った定員の見直しを行い、大規模クラブの解消及び施設整備の方針を定めていきたいと考えています。

○市長

日本一子育てしやすいまちを推進するためには、経済的な子育て支援だけではなく、各種の子育て支援策をバランスよく実施していく必要があると考えています。

このほか

○旧公団住宅について

市が管理している 橋の点検について



鈴木 保 議員

埼玉県では各市町村に、橋が半永久的な構造物ではないことを強調し、橋の点検実施を呼びかけているようですが、越谷県土整備事務所の説明会を昨年9月に受け、その後担当職員で、橋について点検を実施しているのか伺います。

また、春日橋の橋梁は補修、補強の必要性があるという話ですので、予算を計上し、点検をして、安心して通れることが必要だと思います。また、ほかの15メートル以上の橋についても早期に予算化をし、点検していただきたいと思いますので、答弁願います。

○建設部長

越谷県土整備事務所の説明会に基づく安全点検については実施していませんが、道路パトロールの中で橋面や橋の前後の取りつけ部分の状況及び安全さぐの状況などについて、目視点検を職員により実施しています。



春日橋

また、春日橋は設置後47年を経過し、老朽化が見受けられるため、平成20年度に詳細な調査を実施し、対策を行っていききたいと考えています。今後、県の「職員による橋梁観察（簡易点検）要領」に基づき、点検を実施し、これらの調査を踏まえ、専門家による詳細な点検を実施し、必要な補修や補強を講じ、橋梁の安全を図ってまいります。

このほか

○県道関宿春日部松伏線整備の進捗状況について

○江戸川河川敷（庄和地域）の狩猟区を禁猟区に

内牧総合公園の 整備事業について



石川 勝也
議員

内牧公園に隣接している内牧黒沼公園では、蓮や菖蒲、アイリスが植栽され、市民と水生植物が触れ合う場として多くの人々に安らぎや潤いを与えています。昨年は、蓮の花が見事に開花し、テレビや新聞にも取り上げられ、多くの見物客が訪れました。

今後さらに蓮の植えられた水田の整備を計画的に進め、拡張すれば春日部市の名所として根づくのではないかと思います。今後の内牧黒沼公園整備計画について具体的な内容をお伺いします。

○都市整備部長

内牧黒沼公園は、田園風景の中、自然の沼地などを利用し、人と植物が触れ合う場として整備を進めているところです。整備内容としては、内牧公園側からアイリス畑1713平方メートル、菖蒲田2100平方メートル、ホタル小屋のありますトンボ池15

50平方メートル、そして、蓮園3990平方メートルを整備しているところです。

蓮園については、平成17年度に約1200株の花蓮を植栽し、夏には美しい花が開花し、多くの皆様に楽しんでいただきました。

今後は、蓮園を北側に拡張する計画で、現在の花蓮を株分けし、年次的に整備したいと考えています。

このほか

○健全なる青少年の育成を図るために

○生活を支える水道水について



内牧黒沼公園のハナハス

今後10年の財政状況の 推移について財政計画を



阿部真理子
議員

総合振興計画は、今後10年間のまちづくりの方向性を示すものですが、具体的に基本計画を裏づける財源を、わかりやすく市民に示すべきです。

12月議会では、実施計画の見通しを示すという答弁でしたが、事業費や財源内訳がな

く、わかりにくい収支見通しです。総合振興計画が絵にかいたもちとならないよう、計画を保障する財政計画を明らかにすべきと考えます。

また、地方債残高は約1209億円とのことですが、財政健全化法により連結決算が導入される中、今後の事業展開への影響や春日部市が第2の夕張とならないか伺います。

○財務部長

財政健全化法の判断指標の中で重要な連結実質赤字比率は、基本的に黒字のため、マインスの数字になると予測しています。また、実質公債費

比率は16・4%、将来負担比率は約300%と考えており、いずれも健全化の基準値以下であり、破綻するような状況にはないと断言できます。

○市長

財政計画については、事業の進捗状況や特定財源の事情等により変動があり、調整が必要のため予算編成の中で示したい。

実施計画の事業に必要な事業費は、年次計画に従い円滑に実施できるよう、毎年度の予算編成の中で調整したい。

このほか

○学校給食について

後期高齢者の 医療制度について



蛭間 靖造
議員

政府は、後期高齢者医療制度の保険料を、2006年6月の法改正で、年金からの天引きを実施するようですが、天引きをされる方の人数と計算方法を伺います。

また、障がい者の所得保障は考えているのか伺います。国が責任を持たなければな

らない制度だからといって、その責務を果たさずに先に天引きを行うことの問題について考えを伺います。さらに、保険料を払えなかった人はどうなるのか伺います。

○福祉部長

後期高齢者医療制度の対象者見込みの約8割、1万2992人が該当すると見込んでいます。保険の計算方法は、収入額から定められた控除額を引いたものに対して7・96%を掛ける所得割額、及び被保険者の方に等しくご負担をいただく均等割額4万2530円で、これに2割、5割、7割の軽減をし、合計額が保険料となります。

障がい者の方への所得保障制度はありませんが、低所得者向けに保険料の均等割部分の軽減があります。

公的年金から納めていたかどうか考え方は、保険料支払いの利便性や負担の公平性を目指したものであると理解しています。保険料を払えない方に対しては、普通徴収の対象になるとありますが、その方に合った徴収方法を研究します。

このほか

○信号機の設置について
○遊歩道の設置について

市立病院の 再建充実について



秋山 文和
議員

市総合振興計画において、10年間で市立病院の再整備を完了することを決めました。新病院建設のための開設準備室の設置と財源確保の方法について伺います。また、医師の確保について、現時点での見通しと看護師の確保についてもお答えください。

市長には病院の設置者として、夢の持てる新病院建設に向けた決意をお聞きます。

○財務部長

病院事業の経営健全化を図り、公営企業債の同意が得られるような体制を早期に整備するとともに、新たな基金の創設について努力します。

○病院事務部長

経営の健全化へ取り組み、再整備への方向性等が定まり次第、開設準備室の設置について検討を行います。

また、看護師等が働き続けられる環境を作ること、早期復帰しやすい勤務形態を提供

することが大切だと考えます。

○病院長

医師の確保には、頑張った者が報われる仕組みが必要であると考えます。

また、夜間救急の勤務環境改善のため、広域での救急医療体制の整備が必要です。

○市長

総合振興計画基本構想及び実施計画の中で、意思表明を行っています。準備室の開設については、今後の事業の進捗を見ながら検討します。

このほか

○財政健全化法と市財政について

学校教育について



鬼丸 裕史
議員

平成19年4月に学校教育法などが改正、施行され、小中学校などにおいても特別支援教育を推進することが法律上明確に規定されました。

そこで、市における特別支援教育の現状はどのようなものか、また、課題について伺います。

また、武里中学校に通級指導教室が設置された経緯や市内における通級指導教室の設置状況などを伺います。

さらに、今後、市の特別支援教育の支援に向けた方向性について教育長に伺います。

○学務指導担当部長

障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、持てる力を最大限に高めるための細やかな支援を行っています。また、知的発達や身体に障がいがある児童生徒には特別支援学級で支援を行っています。

課題については、関係機関との連携のあり方や支援学習の一層の推進が挙げられます。

平成19年度、県内で初めて武里中学校に発達・情緒障害通級指導教室が設置されました。中学校進学後も、引き続き適切な支援を行うために設置したものです。

○教育長

特別支援教育の先進地としての誇りと責任を持って、すべての学校、教員で取り組む特別支援教育の充実に向け一層の推進を図ってまいります。

このほか

○地球温暖化対策について

庄和地域北部の 活性化について



鳴島 武
議員

春日部市を代表する観光資源は春日部夏まつり、大風あげ祭り、藤まつりの3つですが、観光に対する市の姿勢が、ややするとイベントだけに頼る傾向があると思います。

庄和地域北部にある大風会館は、大風あげ祭りと一体となった常設の会館であるため、観光資源の大きな目玉になると思います。

しかしながら、現在の大風会館だけでは、集客能力は限界なため、周辺にある神明貝塚の整備や老朽化している庄和北公民館を大風会館の近くに建てかえるなど、周辺に少しでも人が集まるような施策を展開すべきだと思います。

そこで、この地域が観光客でにぎわうようなPR等、地域の活性化に資するような方策に対する考えを伺います。

また、まちの活性化とにぎわいを取り戻し、観光スポットとなるよう、隣接する関宿

城や茨城県自然博物館と連携を図り、道の駅「庄和」、龍Q館も含めて観光ルートとして整備したらどうかと考えますが、市の考えを伺います。

○総合政策部長

この地域では、大風会館等の観光資源を生かしたまちづくりを行うことが活性化に大変有効だと考えています。

今後は、PR活動を強化し、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

○環境経済部長

隣接する施設や近隣関係者と連携を図り、観光ルートの開発を研究してまいります。



大風会館

施政方針の 各基本目標について



小久保博史
議員

今期定例会は、1年間の基本的な事業を審議する非常に重要なもので、そして、事業予算の裏づけは、施政方針にあると認識しています。そこで、施政方針に託した市長の基本的な考え方を伺います。

また、7つの基本目標の中のしんらいの施策に戦略的・計画的な行政運営とありますが、総合振興計画の実施計画については、どのような進捗管理を行うのでしょうか。

基本計画では数値の記載があり、その数値を達成するため実施計画があると思います。説明責任ということを考えていただきますよう要望します。

○総合政策部長

実施計画事業は、3カ年の間に実施すべき事業を抽出しており、事業の進捗、財政状況等を踏まえながら計画を見直し、予算編成の中で年次割額を定める方法を考えています。また、そのツールとして

行政評価制度を活用し、目標達成に向けた管理を行い、成果に結びつけてまいります。

○市長

平成20年度は、特に、「日本一子育てしやすいまちの推進」、「都市再生、活力のあるまちづくり」、「安心・安全なまちづくり」、「市民との協働・行財政改革の推進」を4つの重点項目とし、本市の特色を出していくことを考えたものです。これらを重点的に推進しながら、「人・自然・産業が調和した快適創造都市―春日部―」の実現に向けた確かな一歩としてまいります。

回遊性のある 中心市街地について



栄 康次郎
議員

本市では、街なかに春日部市民や来街者の多彩な交流を演出する舞台「劇場都市かすかべを創る」を活性化の理念、目標として掲げています。その中に、6つの活性化の基本方針があり、そのひとつに、歩行者回遊ネットワークの形成によるにぎわいと快適環境

の創出をするとあります。

以前、県内の青年会議所を活用し、あなたのまちに欲しいもの、必要なものというアンケートを実施したところ、どの市町村でも海、浜辺等の水に係るものが上位に入り、海や水辺に対するあこがれが強いのかと思いました。

そういう点からも、中心市街地に位置する唯一の自然資源である古利根川に向けたまちづくり、水辺の利用の実現が必要だと思います。ロビンソンから粕壁三丁目A街区間の古利根川沿いを、歩いて回遊していただくような整備についての考え方を伺います。

○鉄道高架担当部長

自然環境の残る大落古利根川沿いの空間整備については、平成20年度からスタートする総合振興計画のにぎわいの施策の中の自然に親しめる水辺づくりで、緑道やプロムナードの整備を図ると位置づけられています。ご提案の古利根川沿いの整備については、平成20年度からの地域まちづくりモデル支援事業等を活用し、今後、勉強してまいります。

このほか

○地域振興ふれあい拠点施設整備について

一ノ割駅等のまちなか 居住ゾーンの整備について



滝澤 英明
議員

4月からスタートする総合振興計画において土地利用構想が示され、春日部駅、南桜井駅以外の駅周辺及び武里団地地区は「まちなか居住ゾーン」に位置づけられました。

この「まちなか居住ゾーン」では、どのようにまちづくりが進められるのか伺います。

また、一ノ割駅は市内で2番目に乗降客の多い駅ですが、駅前広場や駅前通りが狭く、とても危険な状況です。駅周辺の安全対策が必要だと思います。

そこで、一ノ割駅周辺の整備について、市として、どのようなビジョンを描いているのか伺います。

○都市整備部長

「まちなか居住ゾーン」とは、居住、近隣商業、交通結節機能など、日常生活関連機能の向上を図り、日常生活の利便性が高く、均衡のとれたまちをイメージしています。



一ノ割駅前

一ノ割駅周辺の整備については、地域住民や地元商店街等と連携しながら、歩行者、自転車、安全に移動できる空間を確保し、安心して買い物等ができる整備が必要であると考えています。

今後は、駅周辺の皆様とまちづくりに向けての勉強会等を行い、活気あるまちづくりに向けて、これからの時代に合った一ノ割駅周辺のまちづくり構想を進めてまいりたいと考えています。

このほか

○市立病院の再建充実について